

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：中島 威夫

事業名	一般国道248号 ^{へいわ} 平和バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	岐阜県
起終点	自：岐阜県多治見市大畑町 至：岐阜県多治見市平和町				延長	2.0 km
事業概要	一般国道248号は愛知県蒲郡市を起点とし、岐阜県岐阜市に至る延長約96kmの幹線道路である。平和バイパスは多治見市街地の慢性的な交通混雑の緩和を主な目的とした2.0kmの2車線道路である。					
H6年度事業化	S43年度都市計画決定	H7年度用地着手	H10年度工事着手			
全体事業費	100億円	事業進捗率	64%	供用済延長	0 km	
計画交通量	32,900台/日					
費用対効果分析結果	B/C	総費用	総便益	基準年		
	(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	(残事業)/(事業全体)	平成15年		
	4.5	35/92億円	418/418億円			
	(残事業)	事業費：33/89億円	走行時間短縮便益：361/361億円			
	11.8	維持管理費：3/3億円	走行費用減少便益：42/42億円			
			交通事故減少便益：14/14億円			
事業の効果等	・円滑なモビリティの確保（現道等における混雑時旅行速度20km/h未満である区間の旅行速度が改善される） ・個性ある地域の形成（拠点開発プロジェクト（東濃研究学園都市）を支援する） 他3項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	一般国道248号は県南部の都市を結ぶ主要幹線道路として、沿道地域の産業経済及び文化の向上に大きな役割を果たしており、多治見市をはじめとする関係4市9町の首長で構成される国道248号バイパス線新設促進期成同盟会より早期整備の要望を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	周辺の開発による交通量の増大に伴い、多治見市街地の交通渋滞はますます深刻化している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	用地買収はほぼ完了し、工事促進中である。平和トンネル工事を本年度から着手している。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	都市部での事業であるため、用地買収に時間を要したが、現在全線にわたり工事を進めている。地元も協力的であり早期完成を目指す。					
施設の構造や工法の変更等	トンネル内歩道幅員の見直し、開発事業との連携によるトンネル延長の縮小等コスト縮減を図っている。また、植樹帯の設置、法面植栽など環境にも配慮した計画としている。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図	<p>（起）多治見市大畑町</p> <p>（終）多治見市平和町</p> <p>平和バイパス L=2.0km</p> <p>至蒲戸市</p> <p>至名古屋</p> <p>至美濃加茂市</p> <p>京町2丁目交差点</p> <p>多治見市街地</p> <p>平和トンネル</p> <p>ホワイトタウン</p> <p>レインホールズ</p> <p>平和町5丁目交差点</p> <p>至美濃加茂市</p> <p>至名古屋</p> <p>JR中央線</p> <p>凡 例</p> <p>■ 供用中</p> <p>▨ 再評価箇所</p>					

事業全体の費用便益は、既供用区間を除く区間を対象とした費用便益分析を行っている。